

女性にやさしい検診をテーマに女性専用の検診エリアで実施しています

婦人科健診

婦人科の病気は自覚症状に気づきにくいいため、検診による早期発見がすすめられます。子宮頸がんはウイルスの持続感染が原因で、感染から5~10年かかって発症するので、若い時から検診を受けていれば癌への移行を防ぐことが可能です。また、将来妊娠を望む方にとって、子宮や卵巣の状態を知っておくことは重要です。この機会にぜひ受診してみたいはいかがですか？ 下記のセットで受診すると割引がありお得です。

20~30代に子宮頸がん急増中！

子宮頸部 細胞診

- わかること 前がん状態やがんの細胞がないか、現在の状態がわかります。
- 対象年齢 20歳以上
- 検査方法 子宮頸部の細胞採取と、必要に応じて内診をします。
- 料金 4,730円(税込)

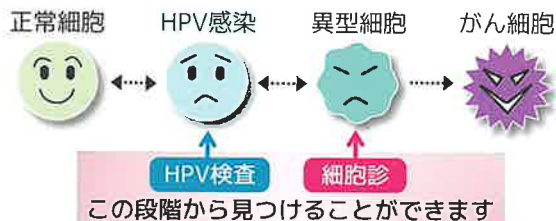
検出率の高い
液状検体法
を採用しています

NEW!

子宮頸がん検診の新検査項目

HPV検査

- わかること ハイリスクHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染有無がわかります。この持続感染は子宮頸がんの主因になります。
- 対象年齢 20歳以上 ※ 30~65歳推奨
- 検査方法 細胞がウイルスに感染しているかを検査します。
- 料金 5,481円(税込)



NEW!

子宮体部や卵巣をチェック

婦人科超音波

- わかること 子宮内膜症(不妊の原因に) 子宮腺筋症 子宮筋腫 子宮体がん 卵巣のう腫 卵巣がん(増加中)などの疾患が見つかります。
- 対象年齢 20歳以上
- 検査方法 膈内に細いプローブを挿入し、超音波画像で婦人科領域を検査します。 ※ 痛みを感じる場合は、直腸(肛門)から検査することもできます。
- 料金 5,811円(税込)

お得なセットはこちら

■セット検診メニュー

セット名	おすすめ	細胞診	HPV	超音波	割引後料金(税込)
Aセット	細胞診とHPV検査の併用で、より精度の高い検診をご希望の方。	●	●	—	9,211円
Bセット	子宮体部や卵巣のチェックをしたい方。月経困難症がある方、将来妊娠を望む方など。	●	—	●	7,480円
Cセット	婦人科領域をできる限りチェックしたい方に。	●	●	●	11,961円

■注意点

- ・ HPV検査と婦人科超音波は、いずれも細胞診が必須です。
- ・ 当センター施設内限定オプションです。
- ・ 実施日は電話等でご確認のうえお申し込みください。

■お問合せ・ご予約は

公益財団法人 日立メディカルセンター



HMC

☎ 0294-33-5911

日立メディカルセンターの子宮頸がん検診および婦人科健診を受診される皆様へ ～ご理解いただきたいことがあります～

- 従来の子宮頸がん検診では、頸部の細胞診のみで他の疾患の指摘は困難でした。
子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍の診断には婦人科内診が欠かせません。特に若い女性の子宮内膜症は確実に増加しています。これらの疾患の有無を把握しておくことは、今後の生活の上で極めて有益と考えます。内診にてこれらの疑いがあれば、超音波診断により確認することは通常の婦人科診療ではごく当然のことになっています。閉経している方では内膜細胞診が必要か否かの判定も可能です。それぞれの病態の状況に応じて経過観察ないし治療の対応となります。
- 子宮頸がん検診では、細胞診とHPV検査を併用し、“いずれも陰性ならその後は2年に1回の検診で構わない”というのが世界的な流れで、わが国でも各自治体の多数が取り入れてきています。

～以上をふまえて、今後は次のように婦人科健診を進めていきたいと思っております～

- ① 子宮頸がん検診時にも、きちんと婦人科内診をして、可能な限り他の疾患の有無の判断をします。
- ② 子宮頸がん検診には、HPV検査も受診されることをお勧めします。
- ③ 超音波検査の実施をおすすめします。
がん検診だけでなく、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍の早期発見の確実性が増し、今後の経過観察と治療の必要性が判定可能になるためです。すなわち、子宮頸がん検診から婦人科健診（超音波を含めたもの）への移行が望ましいと考えています。
- ④ 子宮頸がん検診の結果に問題がなく、2年に1回となっても、確実に増えている疾患の発見および経過観察のため、1年に1回の婦人科健診をおすすめします。
- ⑤ 性交渉のない方でも、内診のかわりに直腸診察や経直腸による超音波検査が可能なことをお伝えしておきます。
- ⑥ 費用の面で懸念を覚えるのであれば、1年に1回でなく2年に1回ではいかがでしょうか。時代に合わせた検診と健診システムにしたいと考えています。

内診がどうしても受け入れがたい場合は、あらかじめ問診聴取の際にお知らせください

《参考》

職域におけるがん検診に関するマニュアル（厚生労働省／平成30年3月）

2. 子宮頸がん検診

(1) 検査項目

子宮頸がん検診の検査項目は、問診、視診、子宮腔部の細胞診及び内診とし、必要に応じて、コルポスコピー検査（子宮腔部拡大鏡診）を行う。

(2) 対象年齢

20歳以上の女性。

(3) 受診間隔

原則として、2年に1回。